

平成30年度 大野北地区まちづくり懇談会結果報告

- 1 日 時 平成30年10月23日(火)午後7時から午後8時15分まで
- 2 場 所 大野北公民館大会議室
- 3 市側出席者 下仲副市長、小山中央区長、荻野まちづくり計画部長、長谷川生涯学習部長、樋口環境共生部長、鈴木中央区副区長、齋藤市民局長
- 4 出席委員等 20人
- 5 傍聴者 8人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	大野北地区のまちづくりと公共施設の再整備について
概 要	<p>区域の人口が6万人を超え、今後も人口増加が予想される大野北地区では、様々な地区の課題を抱えている。主な課題としては、「コミュニティ活動を行う場の不足」、「多文化共生に対する地域住民の意識の向上」、「高齢者の支援」、「若い世代の地域活動への積極的な参画」、「地域活動の新たな担い手が不足」などであるが、これらの課題は、地域住民の交流の場を充足させることで解決できるものとする。この地域を次の世代に引き継いでいくためには、まちづくりの拠点と位置付けられる施設の整備が必要不可欠であるとするが、どのような取組ができるのかを懇談したい。</p>
課題事項1	公共施設の再整備の検討状況について
概 要	<p>淵野辺駅南口周辺のまちづくりと周辺公共施設の再整備の基本的な方針となる「淵野辺駅南口周辺公共施設再整備・地域活性化基本計画」を策定するにあたり、パブリックコメントを実施したところ、地域住民などから様々な意見が寄せられたことと承知しているが、これらの意見を受けた中での、公共施設の再整備に向けての現在の検討状況を伺いたい。</p>
市の取組等の説明	<p>平成20年に大野北地域から、「駅南口全体の公共的な機能のあり方の検討」について提言があった。</p> <p>市では、平成22年に都市計画マスタープランにおいて、地域づくりの方針に「公共施設の利便性向上のための再整備の検討」を位置付け、その後もまちづくり懇談会において、公共施設や鹿沼公園の再整備、民間活力によるまちづくりについて、意見交換してきた。</p> <p>こうした経過により、平成29年12月に「淵野辺駅南口周辺公共施設再整備・地域活性化基本計画(案)」を市民に公表した。</p> <p>パブリックコメントでは、352名914件の意見があり、市民説明会及び個別説明会を9回開催、500名を超える方が参加した。</p> <p>パブリックコメントにおける主な意見は次のとおりであり、それに対する市の考え方を本年5月に示した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本計画の策定期間に対する意見 ○子どもたちに親しまれている児童交通公園をはじめとする鹿沼公園への影響を心配する声 ○新しい施設に期待する機能や規模、利用方法に関する要望 ○駅前の土地の活用方法に関する意見

	<p>現在、パブリックコメントの意見等を踏まえ、市民、施設利用者、有識者で構成される検討組織の立ち上げ準備をしている。</p> <p>検討組織では、施設や鹿沼公園、まちづくりについて、具体的な検討をしていただきたい。</p> <p>検討に当たっては、基本計画（案）の事業スキームにこだわることなく、財政効果や実現可能性を踏まえた上で、最も効果的な事業内容について議論していただきたい。</p> <p>昭和40年代から50年代に人口急増した相模原市では、同時期に多くの公共施設が建設され、それらの施設は、あと数年で建て替えの検討を始める必要がある。大野北公民館、市立図書館、鹿沼公園もその時期に整備された公共施設である。</p> <p>地域から提言のあった「駅南口周辺の公共施設を集約し、民間を生かしたまちづくり」の取組は、少子高齢化、人口減少を迎える相模原市にとっても大変意義のある取組である。</p> <p>この大野北地区を「いつまでも住み続けたいまち」、「多くの人が集まってくるまち」にするために、今後も地域の皆様の声を伺いながら、新たに立ち上げる検討組織の議論も踏まえ、事業を進めていきたいので、引き続きご協力をお願いする。（都市建設局）</p>
<p>主な質疑等</p>	
<p>質問要旨</p>	<p>検討組織の立ち上げ時期について、いつごろ検討組織ができて、最終的にいつを目標にしているのか。</p>
<p>回答</p>	<p>検討組織の立ち上げ時期については、有識者会議と市民によるワーキンググループを、規定の予算を12月議会で承認いただいた後に組織を立ち上げてまいりたい。早くても年明けになるかと考えている。何度か繰り返し意見交換をさせていただき、基本計画案のようなものができた段階で次のステップに行く。</p> <p>いつを目標にということがあるが、意見交換をし、検討組織の中でよくもんでいただくことが最優先と考えるので、今のところ、いつが目標ということははっきり申し上げられない。</p> <p>まずは検討組織での議論を最優先ということ考えている。（都市建設局）</p>
<p>質問要旨</p>	<p>最終目標をある程度定めて進めなければならないのでは。</p>
<p>回答</p>	<p>今回の場合は、地域の皆様との意見交換を大前提にと考えており、今の段階でいつまでにという目安は申し上げられない。今後意見交換や、検討していく過程で時期がわかってくると思うので、今しばらくお待ちいただきたい。</p> <p>（都市建設局）</p>

質問要旨	<p>公共施設の再整備のご説明を受けたが、これまで以上に丁寧に検討を進めていくという印象を受けた。先ほどの質問者にもあったように、地域の方々は、そういった事業の進捗状況、進め方に非常に関心度が高い。年明け早々に検討組織を立ち上げるといってお話を伺ったが、その中で検討された内容については、広く市民の方、地域の方に提示をしていただき、意見をいただくような方向で進めていければよろしいかと思う。</p>
回答	<p>まず年明け、できるだけ早く動き始め、遅くとも年度内にはスタートできるようにしていきたい。</p> <p>少し補足させていただくと、検討組織では、地域代表の皆様をはじめ、公募でも委員に入っていただきたいと考えている。また、人選や公募の手続もあるので、そういったものをなるべく早く整えてスタートしていきたい。</p> <p>また、会議については、今、原則公開で考えており、ご興味のある方は、その検討の場を直接ごらんいただくことも考えている。また、そこで検討された内容についても、できるだけ速やかに、詳しく、皆様方にも何らかの方法でお知らせをしていきたい。（都市建設局）</p>
質問要旨	<p>相模原で育った子どもが、働き手となり、納税者として相模原に住みたいとか、親と住みたいと思ってくれればいいなと願う。働き手になる若い世代の人たちが相模原を選ぶような環境づくりをどうしたらいいか徹底的にリサーチしたほうがいいが、なかなか20代、30代の人の意見が吸い上げづらい。まちづくり懇談会にはあまり若い人は来ない。相模原はここがいい、こんな施設があるといい、子育てしやすいというような視点でやっていかないと、当然高齢者が多いから、高齢者のニーズは満たされると思うが、納税者である生産者世代が相模原に住みたいと思われるにはどうしたらいいかを考えたほうがいいかと思う。そんなところが、財政的にも大事かと思う。</p>
回答	<p>現在、総合計画とあわせて都市計画マスタープランの改定もしようということで行っている。今回、新たな着目点として、特に子育て世代に注目し、今住んでいる人がこれからも相模原に住みたいか、それはなぜか。それから、市外に転出した方にもアンケートを送付し、「どうして相模原に住まなくなってしまったのか」「何が足りないのか」などの質問を行っている。また、転入してきた方についても、「どこと比べて、どうして相模原を選んでくれたのか」などを伺いながら、アンケート結果も含めて、最終的には皆様に住んでほしい、住んでよかったと思っていただけるようなまちを目指していくというところで、現在意見を伺っている。（都市建設局）</p>
質問要旨	<p>集約・複合化した場合の現在の野北公民館跡地の利用について、もし情報があれば教えていただきたい。</p>
回答	<p>集約・複合化した場合の野北公民館跡地の利用については、淵野辺駅南口周辺公共施設再整備・地域活性化基本計画（案）にお示ししているが、当時、売却または定期借地等と検討していたが、今後立ち上げる検討組織の中でも、その用途または処分の方法など、ご意見も踏まえながら最終的には決めていくかと考えている。（都市建設局）</p>

<p>質問要旨</p>	<p>平成29年度に説明を受けた際に、老朽化した公共施設の再整備に対し、一斉に建て替えを検討しなければいけない。それは大野北も同様であるが、「20年という長い先によやく検討の土台に上がる」というようなご説明を伺った記憶があるが、先ほどのご説明の中で「数年後に建て替えを検討する」おっしゃったが、どこかで考え方が変わってしまったのか。</p>
<p>回答</p>	<p>建て替え時期については、築60年を目標にしているのは変わらない。そうした中で具体的にお話しさせていただくと、淵野辺駅南口周辺公共施設再整備・地域活性化基本計画（案）の中で建て替えの時期について記載があり、図書館は平成46年、大野北公民館・まちづくりセンターは平成49年、青少年学習センターは平成41年に築60年を迎える。</p> <p>ただ、市内には他にも昭和40年代、50年代にできた公共施設が多数あり、他の公共施設の状況や市の財政状況を踏まえ、早い時期から検討していく必要がある。その中で建て替え時期については前後する可能性が大きいということ。それは平成29年にご説明したところと何ら変わりはない。誤解を招くような発言で申し訳なかった。（都市建設局）</p>

課題事項 2	複合施設を拠点としたまちづくりについて
概要	<p>大野北地区は、大型マンションや一戸建て住宅が増えて新しい住民が多くなってきている。また、今後、少子高齢化が進むことにより地域の人間関係が希薄化する恐れがある。このような中、地域の各団体と住民との交流、例えば、国際交流、大学との交流、高齢者と若者との交流などをより促進し、地域の活性化を図る必要があると考える。当地区は地域住民の交流の場が不足していることから、複合施設内に皆が集える多目的な場が必要と考えるが、相互利用など、複合施設の具体的な活用方策について伺いたい。</p>
市の取組等の説明	<p>近年、地域活動や交流の拠点として複合施設を整備する事例が増えてきている。例えば、図書館を中心とした施設である「武蔵野プレイス（図書館を中心とした複合施設）」では、図書館とその他の機能の間に関連する本を配置することや、自由に使えるスペースを広く取るなど、それぞれが活動しながらも、空間として緩やかにつながって時間を共有できる施設となっている。</p> <p>大野北地区で、再整備を検討している各施設では、利用率の高い曜日や時間帯が異なること、機械室やボイラー室など重複している設備があることなどから、複合化した場合にはニーズの高い機能は維持しつつ、それ以外の部分は新しい機能として使うことが可能になると考えている。</p> <p>新しい施設が、生涯学習や子育て支援、国際交流など各施設のもつ特徴を生かしながら、幅広い世代や文化の交流が生まれ、諸活動の活性化が図られる空間となるよう検討していきたいと考えており、こうした契機を捉えながら、大野北地区の特色である周辺大学や研究機関等との連携を促進するなど、より一層の地域の活性化につなげたいと考えている。（教育局）</p>
質問要旨	<p>施設によって利用率の高い曜日あるいは利用率の高い時間帯が異なるというお話があったが、具体的な稼働率などの資料や数値があったら教えていただきたい。</p>
回答	<p>平成29年度における各施設の稼働率は大野北公民館が87%。青少年学習センターが64%。また、図書館と視聴覚ライブラリーについては、条例で利用できる人を読書団体や教育関係団体などと規定しており、21%とこの中では比較的低い数字になっている。</p> <p>曜日や時間帯では、公民館は全体的に稼働率が高い状況にあるが、土日、祝日の夜間の稼働率が比較的低い傾向にある。</p> <p>青少年学習センターについては、午前よりも午後から夜間のほうが稼働率が高く、平日よりも土日、祝日の稼働率が高い傾向にある。また、一般的な会議室より防音仕様の部屋の稼働率が、それ以外のものに比べて高い傾向にある。</p> <p>図書館、視聴覚ライブラリーについては、比較的稼働率が低い状況で、夜間の貸し出しは行っていない。（教育局）</p>

質問要旨	鹿沼公園の野球場が平日はほとんど使われていない状況だが、公園を整備する場合、野球場はどうしていくのか伺いたい。
回答	<p>委員ご指摘のとおり、野球場の平日利用はかなり低い状況であり、ほぼ土日の利用が現状である。利用方法について、まちづくり会議や検討組織などにおいて議論をいただき、その中での意見を踏まえて検討していきたい。</p> <p>また野球場は大きなオープンスペースを持っていることから、当然、災害時の防災拠点になることはもちろん、平常時においては、例えば利用がない日は、芝生の部分を多目的に使えるような活用を図ることも考えていく。（環境経済局）</p>
質問要旨	子どもの居場所確保として、子どもや若者たちが興味を持っている、ダンス等のスポーツを安全に安心して利用できる空間を作っていただきたい。
回答	<p>若者やお子さんたちの居場所という観点については、これから非常に大切なことだと考えており、お子さんたちが学校や家庭以外の場所でも、友達と過ごしたり、いろいろな学習をしたりといった時間を過ごすことができる場所づくりが、大切だと思っている。</p> <p>例として挙げた武蔵野プレイスでは、地下に青少年のためのフロアがあり、そこでは、音楽や様々な活動ができる部屋もあるが、それとは別に、広いスペースで、机が置いてあって、そこで何をして過ごしてもいいような場所が設けられていた。子どもたちが集まって、思い思いにゲームをやったり、歌を歌ったりしていたが、そうやって放課後のひとときを一緒に過ごすような時間をもてる場所があり、これはいい取り組みだと思った。</p> <p>それから、防災・防犯の関係も、地域の皆さんの目で子どもたちを含めて見守っていただく形ができるのが理想かと思う。この施設の中でいろいろな世代の人が交わることができたらいいと思うが、そこは皆さんで知恵を出していただくことも必要だと思う。（教育局）</p>